

平高生50年の絆

平成23年5月3日～5月8日。平塚市美術館で平高、高浜高を卒業した8名がそれぞれの思いを絵に託して節目の「高校を卒業して50年 美術半世紀展」を開催しました。

私達8人は
平塚市高等学校の美術部を卒業して 50年
がたちました

50年前は
安保闘争 新幹線開通 東京オリンピック開催など 躍然とした社会においても 活気があり 何か熱い未来を期待しました
それぞれが 学校で 社会で 懸命に生きてきたものです 其の 努力の結果 世界でも 有数の豊かな国になり ジャパンアスナンパー！ ともてはやされ 有頂天になったこともあります

私達の美術活動は 高校在学中や卒業後も 他校と交流があり青春を謳歌しました

そして 今
キャリアの違う8人が50年前を振り返り これからの未来を展望 それぞれの想いを絵に託しての 人生節目の 美術展です



市川正明(S35 卒) 静岡市在住・・・卒業してグラフィックデザインを専攻、流通業で40余り東京・札幌・静岡で好きな事が継続して出来た喜びを満喫、定年して全く違う職業に憧れ植木職人となり今年4年目それと今、太陽の下、水彩画を、ポチポチ！



作品を前に市川さん

加川秀男(S35 卒)平塚市在住・・・10年前から1年に1作のペースで油を描いていました。そんな私に裸婦をやらない？と声をかけてくれた友人のおかげで、なんとなく雰囲気が出てきました。50年ぶりの美術部の仲間と展示会なんて、うれしいかぎりですネー





真砂慎一郎(S35 卒)三島市在住・・卒業後、忘れていた絵筆の感触を、この美術展を機に思い出しました。これからは、描くことを心の友としてゆきたく思います。在学中の故吉川朝衣先生と、今回出品にあたり、ご指導いただきました地元の恩師、八木敏裕先生に厚く御礼申し上げます。



多々良翠(S36 高浜高卒)東京都在住・・この作品展に参加するにあたり振り返ると高校時代にキャンパスに向かい抽象画を、美大では商業デザインを学び、卒後デザイナーとしてデザイン事務所、百貨店の宣伝課に勤務し新聞・雑誌の広告制作に携わったこと、レリーフに魅かれて鎌倉彫を始めたこと、師と友人に恵まれたこと、最近スタンドグラスはじめたこと、これからは家庭生活の中でもプラスとして自分を支える力の一つとなっています。今久しぶりに又、油絵を描きたいと思っています。



穂本砂人(本名・秋本元治、S36 卒)平塚市在住・・高校時代美術部に油絵。卒業後日本画。今は『時を経ても心に残る「形」でないもの、「気」を表現したい』と水墨画を制作しています。継続は力なりといいますが果たしてどうでしょうか？

師、吉川朝衣・工藤甲人の両氏 日本芸術協会副理事長

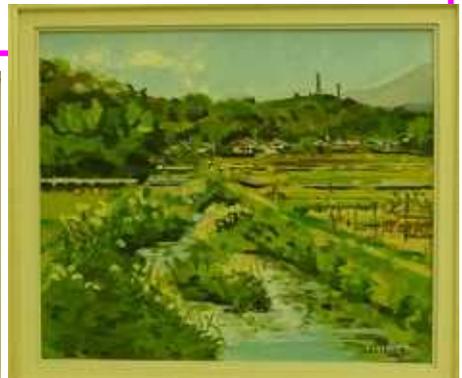


木下一士(S37卒)平塚市在住・・高校時代は水と油のような美術部と柔道部に属し、あまり熱心な部員とは言えなかったが、諸先輩の温かい指導が今も心に焼き付いている。サラリーマン人生の大半を海外の駐在生活に明け暮れたが、リタイア後にまた絵画に返ることができて、これ以上の幸せはない。



木下さん

早川肇哉(S37卒)平塚市在住・・ふとした瞬間、夏草のいきれで、幼い頃の記憶が蘇る。50年経っても、テレピン油の匂いで、美術部室の空気を思い出す。早期退職して14年、ようやく、会社の夢を見なくなった。今、絵を描く平凡な日常に、67才の安息を感じる。



岩本 勲(S39卒)平塚市在住・・少年時代から絵が好きで、いろいろな絵を描いていました。漫画・イラスト・デザイン・美術画など。今では「透明水彩画」を描いています。絵を描いていると楽しい出会い・新しい展開が待ち受けています。アルバイトをして海外でスケッチ旅行をするのが楽しみです。

